

はじめに

人間の脳は、入ってきた情報を仕分けするのがとくいです。
たとえば、初めて見たものでも、その形や特徴から「これは車だ」「これは果物だ」「これは昆虫だ」のように判断します。さらに、「黄色いナンバープレートだから軽自動車だ」「みかんの仲間だから味はすっぱいだろう」「ハチの仲間だから危険だ」などのようにすごいスピードで分類します。
こうした能力のおかげで人間はまわりの世界を理解し、危険から身を守ることもできるのです。

けれど、いろいろな個性がある人間を仕分けすると、「ズレ」が生まれます。たとえば、「大阪の人はみんなおもしろい」「消防士は男性の仕事だ」「いい大学を出ている人はエリートにちがいない」のようなかたよった思い込みが、アンコンシャス・バイアスになるのです。

アンコンシャス・バイアスは大人だけでなく、子どもの世界にもあります。この本を読むことでわかりやすい例を通じて「だれにでも無意識の決めつけがある」と気づけるでしょう。本を開いて一緒に考えましょう。

監修者 北村英哉

もくじ

はじめに	2
どうしてアンコンシャス・バイアスが起きるの？	4
楽しそうにテニスの練習。「まじめにやろうね！」	6
練習中は笑っちゃダメ。本当にそうかな？	8
笑顔がもたらす効果もある	9
仲のいい友だちに負けた。「くやしくてたまらない！」	10
くやしい気持ちは性格が悪いからかも。それ本当？	12
くやしい気持ちは良くない？	13
「宿題やりなさい！」って言われるとムカつく	14
「宿題やりなさい」と言われると、なぜムカつくんだらう	16
いたいところをつかれるから、よけいにムカつく	17
レアものに飛びつくアニキ。「本当に価値があるの？」	18
レアものやラスト1個には価値がある。それ本当？	20
町にあふれる「限定」の文字	21
意見が割れた。「先輩のほうが正しいの？」	22
先輩の言うことならまちがいない。それ本当？	24
頭ごなしに反対するのは良くない	25
野球の試合に出られない子。「続ける意味ある？」	26
試合に出られないなら続ける意味がない。それって本当？	28
スポーツは勝ち負けがあるけれど、勝つことだけが正解じゃない	29
大人にもある、アンコンシャス・バイアス	30



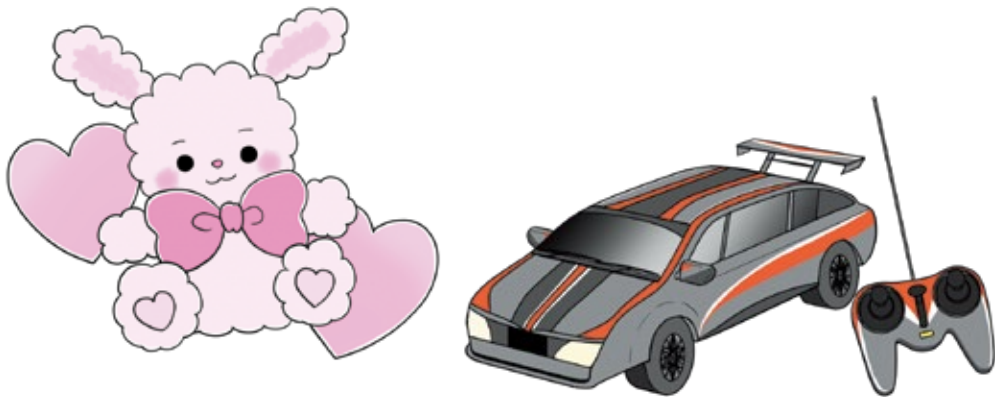
どうして アンコンシャス・ バイアスおが起きるの？

人は型かたにはまったイメージもを持ちやすい

人は性別や職業、その他いろいろなものに対して、型にはまったイメージを持ちやすいです。

たとえば、「女子じょしはかわいいものが好きで、男子だんしはカッコいいものが好き」とか、「パイロットは男性だんせいの仕事しごとで、保育士ほいくしは女性じょせいの仕事しごと」といったイメージです。

実際じっさいはそうでない人もたくさんいるのに、なぜでしょう。



脳のうは「分類ぶんるいするのがとくい」

人間の脳にんげんのうには「似たものをグループごとに分ける」「分類ぶんるいする」という力ちからがあります。

たとえば、大型犬おおがたけんと小型犬こがたけんでは見た目がまるでちがいますが、イヌのグループに入ることはすぐにわかります。2歳さいくらいの子こどもでも、「ワンワン」「ニャンニャン」と、イヌとネコのちがいを理解りかいしています。これは、脳のうに分類する力が備わっているからです。

「パイロットは男性だんせい、保育士ほいくしは女性じょせい」のように型かたにはまった見方みかたをしてしまうのも、分類するるのがとくいな脳のうの働きがあるからです。

ただ、この型にはまった見方を、何気なく「あの人は〇〇に決まってる」とか「女おんな(男おとこ)なんだから〇〇するべき」のように、相手の気持ちおもいきもちを考えず、思いやりおもやりに欠ける使い方つかいかたをするときに、アンコンシャス・バイアスの問題もんだいが起きるのです。



レアものに飛びつくアニキ。

「本当に価値があるの？」

